

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970500623
法人名	医療法人 芙蓉会
事業所名	グループホーム芙蓉
所在地	〒 405-0076 山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1 電話番号 0553-47-7611

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年1月7日

## 【情報提供票より】平成19年11月15日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	6人 非常勤 9人 常勤換算 12人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1	階建ての 1 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	51,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年11月15日 現在

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	一宮温泉病院 山梨峡東病院 中川歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年12月10日

桃畑・金川の森公園に隣接しているこのグループホームは、広い敷地の中に立地されており、居住空間がゆったりとしている。庭には芝生に野菜園があり利用者が手入れすることもある。また犬もいて家庭的な雰囲気が醸し出されている。当グループホームは、介護老人保健施設を運営するなかで、認知症の利用が多いことからグループホームの必要性を感じ、老健で培ったノウハウを活かし、熱意のある管理者のもと、日々、利用者へ寄り添う介護を実践している。利用者の穏やかな表情は印象的である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者へ寄り添った介護を全職員が同じ認識を持って取り組めるように、カーデックスを利用するなどして、徐々に改善に向けての取り組みがはじめられている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 家族の意見を運営に反映させること、職員の研修を充実させること、施設や入浴時間のことなどについて職員会議で話し合われている。今後は改善計画を立てて徐々に実践できる取り組みを期待したい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) H.18年度に2回、H.19年度には3回目の運営推進会議がもたれており、会議の内容も介護の質の向上につながる話し合いがされるなど、深められている。今後もさらに外部・自己評価を話題にしながら地域・家族の意見を活かし、日々の介護の質の向上により一層努力されることを期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月に1度、家族へは利用者の状況を細かく手書きの文章で送っている。家族からの意見・苦情・不安など面会時やあらゆる機会をとらえて吸い上げようとする努力は伺える。今後も引き続き検討する中で、家族会などのような家族同士が話し合える場をつくっていくことを期待したい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、ゲートボール運動会などへ参加してみる試みも開始されているが、見学で終わってしまう場合が多い。近くの公園へは散歩に出る機会が多く、小さい子供との交流がもたれている。今後も事業所のPRなどしていき、地域との関係が密になっていくよう期待したい。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム芙蓉

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの位置付けに伴い、開設当初からの運営方針を見直した。家庭的な環境に加え、「地域の中で楽しく暮らせるよう精一杯の支援をします」という地域を意識した内容に変更し、努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所として力を入れて取り組んでいる点として、職員に施設の理念の周知徹底をすることをあげている。職員会議で議論したり、日々のケアとつなげて管理者は指導しているが、職員間の個人差がみられている。	○	事業所の立地条件もあり具体化するためには、多くの努力を必要とするが、日々のケアとつなげ、繰り返し確認しながら、理念の共有と実現のための努力を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事への参加もしている。運動会・ゲートボールなどの見学を通して交流が持てるよう努力している。	○	今後も地域の行事を通じて交流を深め、事業所のPRも自治会を通して行っていき、より深い地域のつきあいができることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議の中で評価について話し合い、意義を理解し改善に向けて取り組んでいるが、全員の職員の共有までには至っていない。	○	今後は改善計画を立て、実行・評価する中で全職員への意識づけを行っていくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表・家族代表・市担当職員・民生委員をメンバーに迎え運営推進会議がもたれている。評価についても議題にししながら、介護の質向上に向けて努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度開かれる市の連絡会議に必ず出席し、状況を話し合うなどしながら、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	不定期であるが、便りを出している。また毎月の請求書とあわせ、利用者の状況を細かく書いて手書きの文章を出し、家族への報告を丁寧に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時などあらゆる機会をとらえて意見・不満・苦情を吸い上げ運営に活かすよう努力しているが、不十分である。	○	納涼会や敬老会などで家族を招く行事に合わせ、家族会を開くなどして家族同士が話し合える機会をつくるように期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある時は引継ぎの期間を充分とるなど、利用者が不安をもたないよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者および介護計画作成者は研修にでる機会が多い。他の職員は自分達の希望にあった研修があまり無いのが実情である。ノートを利用した研修の伝達はされている。	○	法人の研修もあわせ、1年間の計画を立て、内部研修から充実できるような体制づくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の交流はもたれており、研修会には必ず出席している。	○	協会内だけでなく、近隣のグループホームの交流がもたれ質の向上に努力されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近の利用者は、関連施設のデイサービス利用からの関連よりも地域のケアマネージャーからの紹介や病院入院時にケースワーカーから紹介され、家族が直接相談に訪れることが多い。本人と家族が見学をして頂くことや、家族訪問をしたりしながら関係づくりに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、自分の親の世代である利用者の介護に生きがいを見出し、「ありがとう」の感謝の言葉に職員自身がささえられていることを、日々実感している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究・研修東京センターのセンター方式のアセスメント用紙を活用し、思いや暮らし方の希望意向の把握に努めており、それが丹念に記録されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメント用紙を活用し、個別性にあつた介護計画が日々のケアとつながれている。また、介護計画は計画作成担当者から家族に説明され、意見を伺う事と合わせ、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況変化に対応した見直しや介護計画の期間毎、見直しは確実に実行されている。	○	職員会議とは別にケアカンファレンスの機会を設け、月毎に計画を見直すことを期待したい。また、日々のケアとつなげる仕組みづくりとして、職員の担当制や家族への報告などをつなげる取り組みについても検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に合わせた通院支援が行われている。	○	看護師が配置されていることを活かした入院回避の取り組みや、広い敷地・ゆったりとして完備された施設・認知症に取り組んでいる心やさしい職員の力を活かし、利用者や家族の希望に合わせたきめ細かい取り組みを期待したい。
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重し、利用までの主治医が継続できるようにしている。現在、往診を受けている方が1名いる。協力病院(3ヶ所)の外来院がほとんどであるが、家族の状況もあり、職員が支援する機会が多い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての方針は、「出来る限り、ご希望に添うよう努力する」ということで確認されている。ただし今までターミナルの取り組み経験はない。また入所時に家族と話し合いの機会はあるが、一人ひとりと家族も含め方針を確認することはできていない。	○	法人としては、老健も併設され、重度化に対応できるという側面もある。認知症の終末期のあり方など、できるだけ早い段階から、家族に働きかけ、繰り返し話し合いながら方針を共有できるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の支援の場合では、さりげなく行われており、プライバシーを配慮した対応がされている。また、法人から個人情報保護法について、職員に学習の機会を設ける取り組みもある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちや体調に配慮しながら、声かけをし、利用者のペースにそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の指導のもと、食事づくりをしているが、一人ひとりの意見を聞き、時には食べたい物が食べられるように工夫している。また片づけや机を拭くなど、利用者も一緒に職員と行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は日中に限られているが、その中では一人ひとりの希望に合わせて入浴できるようにしている。入居者の夜間の入浴希望は今のところないということであった。	○	入浴が「清潔の援助」というだけでなく、生活の中での楽しみになるように、希望に添う支援のためには、体制の確保と合わせ検討を期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出等、行事・企画の委員会があり、納涼会・敬老会など家族を誘う企画や運動会・クリスマス・バーベキューなどの年間行事を行っている。また、お花見・いちご狩り・足湯など、その都度計画し楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	11月～3月は利用者の外出の機会が少なくなるがそれ以外は隣接する金川の森公園への散歩は、日課になっている。近くにスーパーがあり、買い物なども安全を配慮した支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無条件に鍵をかけないケアの実践というには立地条件や建物の構造上の問題もある。また、そのために職員会議や運営推進会議で協議してもいる。その上で玄関の施錠がされている。	○	日中の一定時間、鍵をかけない時間を作る努力を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	東八防災と年間契約を結び、年2回避難訓練を実施している。利用者も参加している。笛吹市避難指定施設にも指定されており、地域との関係もある。備蓄に関しても、水やカンパンなど3日分の確保はされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	たいていの利用者が時間をかければある程度は摂取できる状態にある。摂取量の少ない利用者については、チェック表に記録し、職員が情報を共有し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースにはテレビ・ソファなどもあり、利用者同士が会話を楽しんだり思い出に時間を過ごしている。また中庭は、芝生があり天気の良い日には自由に出入りしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別の居室には使い慣れた物が持ち込まれ、居心地の良い工夫がされている		